

## 平成23年の新春を迎えて

日本紡績協会  
会長 井上 晶博

平成23年の新春を迎え、ここに謹んでお慶び申し上げます。

この一年を振り返ってみますと、わが国経済は新興国の経済回復をきっかけとして、また国内経済対策の効果もあって景気の持ち直しの動きがみられたものの、デフレの継続や円高の進行、株安などの不安材料から先行きの不透明感がでており、雇用情勢の悪化、個人消費の低迷など、依然として景気は厳しい状況のまま推移しています。他方、日印EPAの正式合意やTPP（環太平洋連携協定）交渉問題など経済連携の流れが加速してきました。

我々紡績業界におきましても、衣料品需要の低迷や製品の低価格化の進行、そして原綿価格の歴史的ともいえる高騰、海外企業との熾烈な競争などにより、極めて厳しい事業環境に置かれています。このような状況の中で、紡績各社は、総コストの削減を初めとして、事業の「選択と集中」を図る中で、国内外の生産・販売体制の見直しに取り組み、併せて独自の技術を活かした機能素材や新商品の開発、更には繊維以外の事業部門の拡充等、様々な改革に懸命に取り組み、安定した収益の確保に努力しておられることに敬意を表したいと思います。

さて、経済産業省は昨年「産業構造ビジョン2010」を策定し、今後の日本の進むべき産業構造として、これまでの「自動車」依存の一本足打法から、戦略5分野を中心とした八ヶ岳構造へ転換していくことを提言しています。この戦略5分野の一つに「文化産業立国」があり、アジアや欧米に人気の高い我が国のデザイン、ファッション、アニメなどを海外へビジネス化していく、いわゆる「クール・ジャパン戦略」を官民一体となって取り組んでいく方針をたてています。

私ども繊維素材メーカーとしては、アパレル・ファッションのみならず、その基となる繊維素材を含めたモノ作り戦略として捉えており、各社において、その優れた技術開発力を活かし、魅力的な新素材の開発や製品企画に取り組んでいくことが求められると考えます。日本紡績協会としても、業界共通の課題である人材育成のための「紡織技術研修事業」などを進め、技術の継承と開発力の強化を図っていくことが重要であると思えます。

最後に、今年の干支は卯であります。相場の世界の格言に「丑つまずき、寅千里を走り、卯跳ねる」という言葉があり、卯年には一気に伸びるといわれています。今年の景気が回復上昇し、繊維産業並びに各社にとって飛躍の年となるよう心から祈念し、年頭のご挨拶といたします。

以上